

～寒さを吹き飛ばせ！～
新春やまじっこマラソン大会

1/12 (日)



関川河川敷の土居ふるさと広場で、今年で 27 回目となるやまじっこマラソンが行われました。市内外から 1246 人の参加があり、健脚を競い合ったり、親子一緒に元気良く走ったり、気持ちのいい汗を流していました。沿道には応援する人たちが並び、大きな声援を送っていました。

～心身を研ぎ澄ませて～
ふれあいビーチで寒稽古

1/12 (日)



寒川豊岡海浜公園ふれあいビーチで、剛柔会孔明館による寒稽古が行われました。7 歳から 67 歳までの門下生ら 26 人が参加し、周辺の清掃ボランティアを行った後、冷たい海風が吹きすさぶ中、真冬の冷たい海に浸かりながら突きや型の練習をし、心身を鍛えました。

～今年も市場の盛況を願って～
新春紙初市が開催

1/7 (火)



グランフォーレにて第 58 回新春紙初市が開催されました。今回の初市には約 50 社の企業が参加し、初市を盛り上げました。売上高は 62 億 1800 万円にも上り、4 年連続での売上高増（歴代 2 番目の売上高）となりました。

～寒川町西部地区で～
みんなで夜回り

12/22 (日)



寒川町西部地区で、この時期の恒例行事となっている地域子どもや自主防災会、消防団などによる合同夜警活動が行われました。子ども 18 人を含む総勢で 50 人を超える方々が参加し、消防団員の掛け声に合わせて「火の用心」と呼び掛け、拍子木を鳴らしながら巡回していました。

～市内から多数の子どもらが出場！～
JKJO 全日本ジュニア空手道選手権大会に出場



吉田光志君（川之江北中 3 年）と今井琴梨さん（中曽根小 5 年）が全国大会出場への報告に市長を表敬訪問しました。市長は「1 つでも多く勝って、実績を残せるよう頑張ってください」と激励の言葉を述べました。



妻鳥ゆららさん（中之庄小 1 年）、近藤佑樹君（長津小 1 年）、妻鳥碧結さん（土居小 2 年）、妻鳥碧柊君（土居小 4 年）、近藤巧実君（長津小 4 年）、妻鳥彩水さん（三島西中 1 年）が全国大会出場への報告に市長室を訪れました。市長は「気後れせずに力いっぱい頑張ってください」と激励しました。

～世界を相手に～
バンディワールドカップに出場

1/8 (水)



大谷賢司さんが市長を表敬訪問し、1 月 26 日から 8 日間、ロシアのイルクーツクで開催されるアイスホッケーの起源とされるバンディの世界大会「バンディ世界選手権 2014」に日本代表として出場することを市長に報告しました。大谷さんは「今年はメダルを獲りたいです」と力強く話していました。

～あったかしこちゅ～ 10 万の光り～
しこちゅ～冬夜市が開催

12/23 (月)



今年で 5 回目となるしこちゅ～冬夜市が開催されました。会場では家族連れなどが、市内外の 48 団体・企業によるご当地グルメブースやお買い物ブースを楽しんでいました。このほか、人工雪コーナーでは、子どもたちが雪だるまを作ったり、雪の滑り台をそりで滑ったりして楽しく遊んでいました。

～親子で学ぶ防災訓練～
綿市で防災訓練を実施

1/11・12



綿市愛護班主催の第 1 回綿市防災訓練が綿市集会所で行われました。訓練は、自分で自分の身を守る方法を学んでもらおうと、避難誘導や搬送対応、応急救護、消火器訓練、炊き出し訓練などを体験しました。また、段ボールで自分たちの寝床を作った避難所生活体験も行われました。

～ 10 周年記念事業プレイベント～
四国中央市新年交歓会が開催

1/6 (月)



ホテルグランフォーレで、四国中央市新年交歓会が開催されました。今年は約 400 人が参加し、市や企業の発展を祈って新年の挨拶を交わし交流を深めていました。また、会場では「四国中央市の 10 年間の歩み」VTR の上映や写真の展示が行われ、来場者たちは 10 年の流れを懐かしんでいました。

年明け早々、土居町津根で、ある新年会があった。退席したのが、20 時少し前であつたと思うが、トイレに行きたくなつて、運転手さんをお願いし、JR 寒川駅に寄つてもうらつた。この駅は、映画「書道カールズ!! 私たちの甲子園」のラストシーンに出てくる駅である。金子ノブアキさんが演じる先生が、転任して行く場面に、ひなびたさみしい町の象徴のような形で演出されている。プラットフォームで酔い覚ましがつら、ぼんやりと立っていると、上りの特急列車が停車した。もちろん、普通停車する駅ではない。よく見ると、6 両編成であつたと思うが、乗客はまばらであり、1 両に数人であつた。加えて、指定席の車両には 1 人も乗っていなかった。2、3 分下りの特急が、「ゴーツ」という音と共に、勢いよく目の前を通り過ぎていった。駅舎の前には自転車や数台の車が止めていたが、寒川駅に停車する普通列車で帰ってくるのだらう。お正月気分も終わり、もうほとんどの人が当たり前の日常に戻っている。年末年始が 9 日間あつたが、済んでしまえば、あつという間である。自分、1 月 3 日だけが、家でごろごろすることができた。上りの列車も出て行ったプラットフォームは、いつもの静けさで、ぼんやりとした明かりに照らされた階段だけが、そこにいた。人間、平凡がいい。つつがなく過ごすことがいい。でも、それには、必死の努力がいるかもなどと、何の音もないプラットフォームが言っているような気がした。本年も、よろしく願いいたします。

市長の
ひとりごと



四国中央市長
篠原 実
テーマ
JR 寒川駅